

深川江原町ニ三五

職工

深谷金太郎 当三六年

本所江東橋五ノ一 争議員会

大園治兵衛 当三六年

大島町八ノ一

会

松野七松 当三三年

伏見前記ノ通りニ付引続キ嚴重警戒中

右及申(通)報候也

大島製鋼争議団を扱へり

俺達を苦境のト云衣にツキ、お話し去争議屋を

たゞ、出せり

争議を解決し扱とせず外の工場へピラヤハ水たり漁獲会なれや、たり金のかゝる
 ことばかりして俺達は之から先どうすればいい、ん女
 独身の者も其子介身毎日争議団の米下生をくろりれど「カ、ア」や子供はピラ
 と見たり、俺達を困り左大は腹は一つ小いなるまい、
 大山郁夫も弟衆達も、並つ後にしつまい、ヒヨウの考三才が三百の遊業員と千名
 の夜後のため、おち殺される日も遠くないのだから、
 米をぐま化したり、俺達をヤヨロカしたりしや、か、つて争議費用なく、一又も出す
 力、
 大川の奴は何勝造さんなことをしてぬ、つてちつとし困り奴でない人だ、代表者は社
 長とつちめろ、ごまかし屋を、や、おせ、
 方前等、ためにか、ア、や子供も下家に置かれず、田舎へ做へ、おせならぬ人、女
 俺達、ほんとろに俺達の力を、踏つて、おせ、

大島製鋼争議団万才

労働者は新州者の力